



平成 23 年 4 月 12 日

各 位

会 社 名 株式会社テークスグループ
(旧社名 株式会社東京衡機製造所)
代表者名 代表取締役社長 山本 勝三
(コード番号 7719 東証第2部)
問合せ先 取締役副社長 平岡 昭一
(TEL. 042-780-1650)

特別損益の発生および業績予想の修正に関するお知らせ

平成 23 年 2 月期第 4 四半期連結会計期間において、下記のとおり特別利益および特別損失を計上します。また、最近の業績の動向等を踏まえ、平成 23 年 1 月 13 日に公表した業績予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 特別損益の発生およびその内容

(1)特別利益

- ・ 収用補償金 (連結) 493 百万円

中国子会社の工場所在地周辺の都市開発に伴い実施された公的収用について、契約に従った入金があり工場移転が完了したため、当該補償金を特別利益に計上いたします。

- ・ 債務免除益 (連結) 19 百万円

子会社における滞留債務の時効消滅に伴い当該金額を特別利益に計上いたします。

(2)特別損失

- ・ 貸倒引当金繰入 (連結・個別) 9 百万円

平成 22 年 2 月期に、デジタル事業における取引先からのサーバー使用料の回収遅れに伴い、当該売掛金の一部に対し貸倒引当金を計上いたしましたが、当第 4 四半期での見直しにより追加計上いたします。

- ・ 貸倒引当金繰入 (連結・個別) 18 百万円

住生活事業における仕入先への前渡金について、当第 4 四半期での回収状況等に鑑み、保守的な判断により貸倒引当金を追加計上いたします。

- ・ 商品評価損 (連結・個別) 13 百万円

住生活事業における滞留在庫商品について、今後の販売見込み等を勘案し、保守的な判断により評価損を計上いたします。

- ・ 投資有価証券評価損 (連結・個別) 10 百万円

住生活事業において、中国市場向け日本商材 EC (電子商取引) 運営会社に出資したものの、事業が低迷し回復状況が不透明なことも踏まえ、保守的な判断より当該出資額について評価損を計上いたします。

- ・ 関係会社支援損 (個別) 28 百万円

中国子会社への貸付金について、同社が上記収用補償金を取得したことからグループ内での資金の有効活用等を目的に繰上げ回収としたが、中国当局より期限前弁済について元本割引が求められたため、当該弁済免除額を特別損失に計上いたします。なお、この特別損失は相殺消去されるため連結業績上では影響ありません。

2. 業績予想数値の修正

(1)平成23年2月期通期連結業績予想数値の修正（平成22年3月1日～平成23年2月28日）

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	3,970	△302	△403	△128	円 銭 △1 79
今回修正予想(B)	3,815	△361	△473	△90	円 銭 △1 26
増減額(B-A)	△155	△59	△70	38	—
増減率(%)	△3.9	-	-	-	—
(ご参考)前年同期実績 (平成22年2月期)	4,340	△157	△231	△460	円 銭 △6 45

(2)平成23年2月期通期個別業績予想数値の修正（平成22年3月1日～平成23年2月28日）

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	1,898	△187	△184	△283	円 銭 △3 96
今回修正予想(B)	1,786	△259	△255	△396	円 銭 △5 55
増減額(B-A)	△112	△72	△71	△113	—
増減率(%)	△5.9	-	-	-	—
(ご参考)前年同期実績 (平成22年2月期)	2,174	△198	△217	△208	円 銭 △2 92

(3)修正の理由

平成23年2月期通期連結ならびに個別業績は、第4四半期連結会計期間において上記1.の特別損益の発生による影響があったほか、試験機事業では売上高はほぼ前回予想値となるも個別では一部の特殊な仕様の製品について原価超過となる見込であります。また、住生活事業でも国内外ともに業績の持直しは見られ、一般消費者向けに展開している健康関連商品のミネラル還元水素水生成器の販売は好調を維持したものの、全般的な販売の伸び悩みなどにより売上高は前回予想値には届かず減少となる見込であります。なお、ゆるみ止めナット事業は公共投資の削減等による影響から全般的に売上高は前回予想より減少したものの、高粗利のゆるみ止めスプリングの販売は順調に推移し損益はほぼ前回予想とおりの見込であります。

以 上